**第Ⅱ群　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　分科会番号５**

多様な価値観が混在する社会の中で,豊かな心をもち,他者を大切にしながら認め合う社会の実現に向けた教育に関する提言

～台東区の歴史・伝統文化を活用した学校経営の在り方～

台東区立小学校長会

Ⅰ　現状と問題点

　　急激に変化する時代において,我が国の学校教育には,一人一人の児童が,自分のよさや可能性を認識するとともに,あらゆる他者を価値のある存在として尊重し,多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え,豊かな人生を切り拓き,持続可能な社会の創り手となることができるよう,その資質・能力を育成することが求められている。

しかし,社会の変化と共に人間関係が希薄になり,人と人とのふれあいを通して,自分の良さや自分と違う考えに気付いたり,違う価値観を認めたりすることが難しくなり,国際理解,障がい者理解,LGBT等,多種多様な考えを認め共存するための具体的な活動が効果的に行えていない現状がある。さらに,新型コロナウイルス感染症防止により,学校教育が大きく制限されたことで,ますます,児童が自分の住む地域の良さを知ったり,地域の行事に参加したりする機会も少なくなり,自分の地域に愛着をもったり,誇りをもったりすることが難しくなっている。

台東区では,これまで台東区教育ビジョンの教育目標として,児童が心身ともに健康で,人権尊重の精神を基調としつつ人間性豊かに未来を想像する人材に成長することを願い,

○互いの人格や多様性を尊重し,思いやりの心と規範意識をもつ人

○個性や豊かな創造力,健やかな体をもち,自ら学び,考え,行動する人

○台東区の歴史・文化に誇りをもち,地域社会を愛し,発展に貢献できる人

の育成に向けて教育を充実することを掲げてきた。

こうした状況を受け,台東区立小学校校長会では,台東区教育委員会の基本理念「まちを学びのキャンパスとして　世界に飛躍する未来を創る人を育成する」を受け,学びのキャンパス台東アクションプラン,台東区の伝統文化,人権教育の三つの柱を中心に,改めて本区のもつ教育環境資源に着目し,豊かな心をもち,他者を大切にしながら認め合う社会の実現に向けた本区の取組について研究を進めることとした。

Ⅱ　研究の概要

　１　地域の実態

　　台東区には浅草・上野をはじめとする観光名所が数多く点在し,年間約４千万人の観光客が国

内外から訪れる。浅草には江戸情緒あふれる街並みと活気のある人情味の厚い下町気質とともに

多くの伝統文化が受け継がれている。また,上野には世界遺産である国立西洋美術館があるほか,

博物館や動物園,大学や音楽ホール等が集められた我が国唯一の場所であり文化と芸術の薫り漂

う地域である。歴史と文化の両面を兼ね備えた台東区は,人口約20万人,小学校は19校。４

代に渡って同じ学校に通う事例は珍しくなく,学校に寄せる期待が大きいのも本区の特徴の一つ

である。

２　研究内容

実践事例①【学びのキャンパスプランニング】

本区は,上野,浅草,谷中,隅田川など歴史と伝統に恵まれた地域を擁し,情緒ある個性豊かな文化を育んできた町である。こうしたかけがえのない財産を生かし,台東区全体を人が成長するための環境である「学びのキャンパス」としてとらえ,学校,家庭,地域が強い連携を図りながら,豊かな心を育んでいる。

特に「上野の山文化ゾーン」には,博物館（国立科学博物館,東京国立博物館,黒田記念館）,美術館（国立西洋美術館,上野の森美術館,東京都美術館,東京藝術大学大学美術館）,その他（恩賜上野動物園,東京藝術大学等）,多くの重要な文化施設が集まり,世界でも類を見ない貴重なエリアとなっている。台東区では,これらの財産を有効に教育活動に取り入れることができるように,「学びのキャンパスプランニング」を構築した。これは,区内の博物館・美術館などの文化施設や,企業や地域の方々,専門分野に造詣の深い方々等と連携し,130のプランが設定されている。各学校では,自校のカリキュラムに合わせてプログラムを選択し,これらの学習をとおして郷土に対する誇りと愛着が育まれ,豊かな心が養われている。

○　東京都美術館

東京都美術館では,スクールプログラムとして,貸し切りの展示室で,初めての美術館の鑑賞を実施した。「屋外に飾られている立体作品の鑑賞」「東京都美術館の建物の鑑賞」「展示の作り方」などを学び,東京都美術館の歴史や背景を知りながら,通常の美術展の見学では経験できない貴重な時間を過ごすことができた。東京都美術館の建築の魅力にも触れる機会となった。

〇　恩賜上野動物園

　　恩賜上野動物園では,貸出教材「クイズＤＥスタンプ」「先生と一緒に！わくわく観察バック」を用意し,楽しく観察ができる工夫を行っている。動物の録画映像や標本資料などを用いて動物解説員の話もある。近隣にある小学校では,パンダ「シャンシャン」の３歳の誕生日には,児童全員でおめでとうカードを作成し園に届けた。

〇　東京文化会館

東京文化会館では,東京音楽コンクール入賞者によるクラシック音楽の出張コン

サートを行った。児童が直接,触れる機会の少ない本格的なクラシック音楽を,学校で聴け,豊かな感受性の育成に繋がった。質の高い演奏とアナウンサーのリポートを交え,演奏やミニワークショップに参加し音楽を楽しめるプログラムとなっている。

〇 坂真太郎氏「能楽師」

６年生が「能楽６５０年の伝統～見て,聞いて,ふれて～」の体験活動を行った。当日は,能楽師の坂真太郎先生をお招きしてお話をうかがった。社会科でも学習した日本が世界に誇る「能楽」についての理解を深めることができた。

実践事例②【台東区歴史・文化検定】

台東区は,寺社と中心に栄えてきた都内でも有数の歴史ある区である。

近世以降は上野と浅草を中心に街が整備され,一般の人はもとより大勢の

文化人が行きかい,日本の歴史と文化の中心を担ってきた。このような台

東区の歴史や伝統,文化を子どもたちに知ってもらい,郷土に誇りと愛情

をもってもらうことをねらいとして,区教育委員会では,区の歴史をはじ

め,各時代の暮らし,活躍した人物,伝統・文化等について,児童が楽しく理解できるよう写真や図版を豊富に使用した「台東区歴史・文化テキスト」を作成し,平成22年度から区内小学校５・６年生に配布している。また,児童が台東区の歴史や文化に対してより深く興味をもてるようにするために,年に一度,「台東区歴史・文化検定」を行っている。

このように,台東区の歴史と文化を理解することで,自分たちが生活する地域に愛着をもち,郷土を愛する心情を育てる取組として毎年,区内全ての５年生が積極的に取り組んでいる。

実践事例③【地域文化を学ふれあい学習の取組】

三社祭は神話に基づき700年前から続く日本を代表する歴史あるお祭りである。毎年５月

第３金・土・日曜日に行われ,３日間で180万人の人出を数え,町を挙げて盛大に行われる。学区域のお祭りである三社祭りを体験することを通して,地域の行事に親しみ,地域を愛する心情を育てることを目指している。

三社祭初日の金曜日には全校児童が参加し,「地域文化を学ぶ集会」と「神輿見学」を行う。「地域文化を学ぶ集会」では,三社祭りの由来を知るために,三社祭りの動画を見た後,地域の方からお話を聞く。

「神輿見学」では,地元町会の神輿を校庭に入れ,神輿の最終段階の組み立てを行う様子を見学しながら,浅草にある江戸時代より続く神輿や太鼓を製造販売する店の方に来ていただき話を聞く。実際に神輿に触れながら見学をし,神輿を担いでその重さを実感する。

実践事例④【人権教育について】

　　〇教育委員会の取組

台東区教育委員会では,人権尊重教育を推進,充実させるために小学校６校,中学校２校を人権尊重教育推進校に指定し,各校でその研究を進め,毎年,研究発表会を開催している。また,毎年,担当指導主事と推進校６校の教職員を人権教育先進地域視察に派遣し,各地域での実践事例等を視察している。さらに,教職員一人一人が人権尊重の理念や人権課題について十分に理解し,各校で人権教育を効果的に展開するために年７回の研修を主催している。

　　＜視察先一覧＞

|  |  |
| --- | --- |
| 平成２８年度 | 東大阪市立長瀬北小学校,柏田中学校,大阪人権博物館 |
| 平成２９年度 | 小諸市立美南ガ丘小学校,小諸東中学校,小諸市古文書調査室,小諸市人権センター |
| 平成３０年度 | 京都市立九条弘道小学校,高野中学校,京都市人権資料展示施設「ツラッティ千本」  京都市地域・多文化交流ネットワークサロン |
| 令和 元 年度 | 桜井市立桜井南小学校,水平社博物館 |

〇人権尊重教育推進校の取組

台東区内のＡ小学校では人権教育の一環として,全学年で革を使った作品づくりを行っている。その際,学年の実態に応じて革を使った作品の製作に取り組ませている。また,皮革産業に関わる施設見学を行い,講師を招いて,地域の皮革産業の歴史について学ぶことも行っている。そのような活動により,まず児童が皮革に親しみ,皮革について知ることができる。また,皮革のよさや性質,大切さを学び,愛着をもつことで,児童に対して革や地域の皮革産業に興味,関心をもたせることができる。さらに,児童にとっては,自分たちの地域のよさを知り,愛着と誇りをもつことにつながる。

台東区の地場産業である皮革に関する知識やものづくりの素晴らしさを次の世代に引き継ぐため,教員が率先して学び,授業の中で革細工製作を行っている。

１年から６年生まで系統的に革細工を製作させる上で,担当する学年の児童が製作する革細

工を台東区立産業研修センターで実際に製作する。この研

修では,地域の皮革工芸の第一人者である講師の先生から

基礎的な皮革の知識から専門的な技術まで指導を受けている。皮革の種類（児童が実際に扱うタンロー,すでに着色や模様などの加工がされたクローム革）,刻印の打ち方の方法やコツ,染色方法について（濃淡の出し方や２色以上を重ねる染色方法）,仕上げの方法や薬品の使用方法などが挙げられる。教員が研修で得たことを教育の場で活かしていくことで,児童の地場産業についての理解を深め

＜第３学年「革のペン立て」製作＞

ることを,本研修の目的としている。

Ⅲ　まとめと課題

1. まとめ

・地域の教育力を活かし,発達段階に応じた人権の意義,内容や重要性について,児童が理解を深める機会をつくることができた。

・各学校の道徳教育全体計画を基に,「特別の教科　道徳」の充実を図るとともに,本区「こころざし教育副読本　こころざし高く」の活用により,児童が将来の夢や理想をもち,社会に貢献しようとする志の素地を育むことができた。

・江戸で培った豊かな文化財や歴史,伝統行事に触れる機会を通して,豊かな感性の醸成につながることができた。また,多様な文化・芸術に触れる体験を充実させることで,情操教育の効果を高めることができた。

1. 課題

　・豊かな心の育成のために,各学校において,児童や学校,地域の実態や家庭との連携強化を視野に入れ,組織的・計画的で,育成すべき資質・能力を見通したカリキュラムマネジメントが必要である。

　・本区の人的･物的資源等を効果的に組み合わせるとともに,各教科等の関連を図りながら指導

の効果を一層高められるような横断的な学びの工夫が必要である。

Ⅳ　提言

多様な価値観が混在する社会の中で,豊かな心をもち,他者を大切にしながら,認め合う社会の実現に迫るために,台東区立小学校長会は次の２点を提言とする。

〇学校や地域が相互に連携し,継続的に異年代・異文化の人々との交流や体験活動の機会を設けることで,児童に社会の一員としての自覚,思いやりの心など,豊かな人間性を育んでいく。

〇地域の様々な体験や地域の人たちと児童を触れさせることで,人と協力すること,異なる意見を調整することなど,豊かな人間関係や社会における習慣やルールを身に付けさせていく。